

公募要領

次のとおり、2025年日本国際博覧会「介護ロボット等テクノロジーの普及」に係る展示機器の公募を実施します。

令和7年2月25日

厚生労働省老健局高齢者支援課長

厚生労働省では、介護現場におけるテクノロジーの活用によるサービスの質の向上や職員の現場負担といった生産性向上の推進を図るため、介護ロボット等テクノロジーの普及を行っているところである。

2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）において、介護テクノロジーに関する効果的な情報発信のため、介護テクノロジーの機器展示や体験等を行う展示ブースを設置することとしている。

本要領では、上記の機器展示等に係る公募について以下のとおり定める。

1 出展ブースコンセプト

厚生労働省は、大阪・関西万博において、介護職員の業務負担の軽減及びケアの質の向上に資する介護テクノロジー等に関する効果的な情報発信を行うためのブースを設置（※）し、介護ロボット等テクノロジーの展示を行う。

有識者による議論の結果、展示ブースのコンセプトを「いつでも自分らしく生きる Live Fully, Pursue Happiness」と設定した。展示ブースでは、有識者による議論を踏まえて作成したストーリーに沿って、テクノロジーを展示する。具体的には、2人（または1人）の主人公を設定し、2025年を起点として、現在・5年後・10年後・15年後の各年代を設定し、主人公毎に各年代で発生した課題等を解決するためのテクノロジーを展示することを想定している。（別紙3）

なお、ストーリーは展示機器選定後、展示機器に合わせて適宜修正を行う予定である。

（※）ブースデザインについて、現時点では（別添1）の通り作成しているが、選定された展示機器等に合わせて修正する可能性がある。

2 出展期間

健康とウェルビーイング ウィーク

HEALTH DESIGN 輝き、生きる。Live Brighter トラックプログラム

2025年6月21日（土）～6月29日（日）10時から19時（29日のみ10時から14時）

※最終退館 20 時

搬入・設営：6月19日（木）～6月20日（金）10時から19時

撤収：6月29日（日）14時から19時

3. 出展場所

EXPO メッセ「WASSE」

4. 募集

(1) 公募期間

2025年2月25日（火）～2月28日（金）

(2) 対象となるテクノロジー及び採択予定数

介護職員の業務負担の軽減及びケアの質の向上に資する介護テクノロジー（※）であって、別紙「展示により表現されるストーリー」の内容に沿ったものを8種類程度採択する。なお応募内容によって、ストーリーに記載の介護テクノロジーであっても、採択しない場合がある。

（※）国内の介護テクノロジー製造事業者又は輸入事業者により上市済みの介護テクノロジーのほか、企画・研究開発中の介護テクノロジーも対象とする。

(3) 応募方法

別途添付の応募フォームに必要事項を記載の上、送信すること

URL：<https://586f057e.form.kintoneapp.com/public/expo2025osaka-kaigopf-applicationform>

(4) 選定方法

厚生労働省事業「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」におけるリビングラボ有識者による採点をふまえて、選定を行う。なお公募において、定数を超える応募があった場合は、評価の上位から採択する。

(5) 選定基準

（別紙3）「展示により表現される想定ストーリー」に沿った介護テクノロジーを選定対象とし、（別紙1）「採点基準表」に基づいて評価を行う。なお、ストーリーは選定された機器に合わせ、適宜修正を行う予定である。

(6) 通知方法

採択の可否は、事務局より応募者に遅滞なく通知する。

(7) 展示費用等

展示にあたり、原則上限を3万円とし、事務局より出展者に対し謝金を支払う。

展示に用いる台および電源（単相100V 60Hz／単相200V 60Hz／三相200V 60Hz）は出展事務局にて手配する。その他、展示に関わる什器の借料、展示機器の搬入出（集

荷場所への送料除く)、設置、撤去等に関する人件費等は事務局負担とする。

別途当課において調達予定の展示ブースの運営・設置会社と調整の上、搬入・搬出方法は別途指示する。

5. その他留意事項

採択された介護テクノロジーのバランス等をふまえて、展示スペース等、実際の展示は応募内容から変更する可能性がある。

公平性を踏まえ、展示機器に記載の企業ロゴ及び製品ロゴ等はテープで隠す等の対応を実施すること。

6. 事務局

厚生労働省、株式会社 NTT データ経営研究所（「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」委託先）

7. 免責事項

- (1) 事務局に瑕疵のない機器の破損等により発生した損害については、事務局は責任を負わない。
- (2) 申込にあたっては、下記に該当しない者を対象とする。
 - ①法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき。
 - ②役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

(別紙1) 採点基準表

- 1 提案されたテクノロジーにより、別紙「得たいアウトカム」が達成できること 30点
(別紙2) ①~⑥で示すアウトカムについて、1項目ごとに5点
- 2 ストーリーを実現する手段としてのテクノロジーに魅力があること 30点
 - 多くの来場者の興味関心や驚きを得られる 30点
 - 来場者の興味関心や驚きを得られる 20点
 - 来場者の一部の層から興味関心や驚きを得られる 10点
 - 独自性に欠ける 0点
- 3 ストーリーに沿っているまたは、代替のストーリーに説得力があること 15点
 - 十分ストーリーに沿っているまたは十分に説得力がある 15点
 - 沿っているまたは説得力がある 10点
 - 一部沿っているまたは部分的に説得力がある 5点
 - 説得力がない 0点
- 4 機器の使用方法や導入効果等、機器の紹介ができる動画等電子媒体の提出可否 20点
※提出可能であっても、内容が不十分等、万博で放映や掲示することが適当でないと判断された場合0点とする。
 - 提出可能 20点
 - 提出不可能 0点
- 5 品質や安全性
品質や安全性に疑義がないこと 5点

(別紙2) 想定される来場者像と得たいアウトカム

	想定される来場者像	得たいアウトカム (来場後の姿)
①	若い層 介護者 (家族): テクノロジーに親和性が高く、価値 (パフォーマンス) のあるものを取り入れていきたい層	介護を受ける家族、そして介護をする家族 (自分) の未来に対して安心感を感じ、テクノロジーを「使ってみたい・勧めてみたい」という興味・関心が残る。
②	若い層 介護者 (介護職員・メーカー): 仕事の意義を模索しつつ、新しいことにチャレンジしたい層	介護に関わる自身の業務 (業界) に魅力や誇りを感じ、機器の利用や開発などテクノロジーを通じた新しいチャレンジへの意欲が増す。
③	シニア層 被介護者: 人に迷惑をかけるのではと、自分らしさを狭めてしまいやすい層	自身と自身を介護してくれる方の「自分らしさ」を考えると同時に、「こういうことができるのか」という自己選択の広がりへの期待感を持てる。
④	シニア層 介護者 (家族・介護職員・メーカー): 地に足をつけて先を見据えつつ、バトンタッチも意識する層	より介護が身近にある中で、次の数十年に具体的な期待が持て、そのさらに次の世代へ何を残せるのか・残さないのかを考えるような使命感を感じる。
⑤	一般の若い方: 介護に対して無関心、またはネガティブなイメージを持つ層	無関心、またはネガティブな印象だった介護 (テクノロジー) に対して、その価値と意義を通して「カッコいい」と感じる。
⑥	一般のシニア層: 介護というものに漠然と不安を抱えている層	親世代や自身の介護に不安を抱えるタイミングに対して、「これなら年を取るのも怖くない」という希望を感じる。

「若い層」は主に 20~30 代、「シニア層」主に 50 代以上を想定

(別紙3) 展示により表現される想定ストーリー

※選定されたテクノロジーにより、調整を行う場合がある。

ターゲット：シニア層（家族介護者→被介護者）



吉田剛さん

現在は会社の管理職として活躍中。65歳の定年後を意識しはじめ、70歳までの継続雇用制度を使う予定。
趣味は妻とのショッピングで、月に1回は出かけている。自宅で同居する父の身体機能が低下してきているのが気になっている。



■現在 63歳

同居の父の身体機能低下が顕著になってきましたが、一部在宅で介護を行なっています。温泉が好きな父のため、身体的な負担が少なく自立して入浴できる「入浴支援機器」を導入し、自宅での入浴が行えています。

■5年後 68歳

父の身体機能の低下に加え、認知症診断を受けたことから、専門職とも対応を相談し、施設系介護サービス事業所への入所を決めました。入所施設の決め手は、「見守り機器」を活用していて、離れていても父の状態や状態の変化等を確認できることです。

■10年後 73歳

自分自身も身体的に困難な状態が増え、特に起立時や長時間の歩行に痛みが生じる状態に。しかし、装着型の「移動支援機器」を身につけることで数時間であれば単独での外出も可能です。妻と共にショッピングにもでかけられています。

■15年後 78歳

身体的状況が悪化し、施設に入所しましたが、自律型の「車椅子ロボット」とスタッフのサポートもあり、数年振りに妻とショッピングに出かけることもできました。

ターゲット：若い層（家族&介護職）



高橋亜美さん

都市部の集合住宅で夫と末就学の子供二人（長女・長男）と4人暮らし。介護職として特別養護老人ホームに勤務している。出身は農村部で実家には両親が暮らしているが、帰省は年に1～2回。



■現在 36歳

自身の勤務先で「介護記録ソフト」が導入され、今まで手書きで記入していた記録（※）を音声入力ですばやく入力できるようになりました。さらに、ご利用者の情報をソフトで収集・蓄積することにより分析が可能になり、よりご利用者それぞれに合ったケアができるようになりました。※展示ブースでは、ボード（パネル）で介護記録の作成義務を補足

■5年後 41歳

お正月に実家へ帰った時に両親の老いを感じ、日常的なコミュニケーション不足が不安に。安否確認も兼ねて少しでも話ができるように「コミュニケーションロボット」をプレゼント。ロボットとの会話が刺激になっているほか、ロボットを通して子どもたちとも楽しそうに話す両親には生活に“ハリ”が出てきたように感じています。

■10年後 46歳

自身の勤務先で自立支援強化のプロジェクトリーダーに抜擢。ご利用者の訓練を体系的に支援してくれる「機能訓練支援システム」を導入。今まで人員数的に諦めていた面もありましたが、これまでと同じ人数でも効果的に訓練を行い利用者の自立度向上が目に見える形でありました。在宅復帰して家族とともに暮らせる人も増えました。また、勤務先には中学生になった子供たちが訪れ、システムを体験しています。

■15年後 51歳

職場で責任ある立場になり、夫と共に家を開ける機会が増えました。田舎の両親はデイサービスを利用しているものの健在で、「アバターロボット」を通して、長女の大学の学園祭や、長男の高校の部活動の試合観戦などに参加しています。両親は家族として役割があることが嬉しそう。小さい頃からコミュニケーションしていたので子どもたちもお互いに抵抗感なくやりとりできているようです。